



全国連合退職校長会

会報



年頭所感

会長 入子 祐三

令和二年の
新春をお迎えのこと
お祝い申し上げます

迎春のお慶びを申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。昨秋には、「即位正殿の儀」が行われ、皇居前広場で「御即位奉祝の会」などが開催されました。

待望の「二〇二〇オリンピック・パラリンピック」の開催が迫り、気ぜわしく感じられる日々になりました。世界中の国々から多くの方が来日される最大のイベントの開催です。国際親善・国際理解教育の実をあげる年にしなければと思います。開催国だけに、メダルの数が気に

なりますが、友好親善に努め、安全第一に運営されることを期待したいと思います。そして輝かしい日本の姿を示して欲しいものです。

さて、教育の振興・充実と支援活動に視点を当て、新学習指導要領の円滑な実施と働き方改革のための運営体制をどのようにしたらよいか、当面する課題について考えてみたいと思います。

第一に人工知能、ロボットの新しい時代に必要となる資質・能力は何かを捉え、生きて働く知識技能の育成が重要になると考えます。また指導の仕方を検討する必要があると思います。アクティブラーニングの視点からの学習過程の改善などの実践によって「対話力」の育成が大切です。

さらに、「プログラミング力」に関わるICTの基盤整備を進め、利活用が出来るように支援したいと考えます。そしてデジ

タル化に対応できる情報処理能力の育成に力を入れたいと考えます。

第二に、「道徳」が特別の教科として位置づけられたことを吟味したいと思います。特に「いじめ」についての本質的な問題解決に向けて、道徳教育指導の一層の充実などを考えたいと思います。

第三に、義務教育9年間の学級担任制を、学級担任制を重視する段階と教科担任制にする段階とを見直す必要を感じます。小学校における教科担任制の再検討です。教師の負担軽減にもつながり、働き方改革になるのではないかと考えます。新しい時代の教育制度として検討したらよいと思います。

結びに、新年を迎えるに当たって、気がかりなことは、昨年の台風十五号・十九号等の強風・豪雨の被害の復旧が大きく遅れていることです。また河川の氾濫や崖崩れによる道路の寸断などにより被災されている方に対し、心よりお見舞い申し上げます。迎えた新年は自然災害の無い、穏やかな佳き年になることを祈念する次第です。



つながりを大切に

副会長(北海道地区) 黒坂由紀子

本道は、会員減が課題となっている。「会に入るメリットは何か?」という声はよく聞く。メリットは与えられるものではなく、自分でつかむものだと思う。しかし、会を知らない中で感じたり、理解したりすることは無理だとは思ふ。だから、人とのつながりの中で、一歩足を踏み入れてもらい、関わりながら見出し出してもらえようになければと思う。

土日に教育サポートをしている支部もある。こうした活動をした会員から、生き甲斐を得られたという感想が多く寄せられている。

教育界で育てられてきた私たちだからこそできる活動である。現職にもこうした応援団としての活動をしっかり発信していくことが会としてのメリットのひとつだと思う。もちろん、他にも参加しやすい日程や場を工夫しながら、親睦や研修など様々な活動の場を設定し、人との温もりのある関わりの中で良さを実感してもらうことも大切である。

「老病介護」を経験した「老介護を自分一人で頑張っていたが、自分も病気になる、改めて周りの人々との関わりから、心にゆとりのある日々を送ることが出来たようだ。だから「人間関係の中でしか喜びは生まれない」と言っている。

つながる顔に見える関係を大切に、地道に会員減の課題に向き合っていきたい。

日本型教育というベース

副会長(関東申信越) 新沼 隆三

教職員の働き方改革が各自自治体の推進プログラム等に基づき進められているが、少々気になることがある。知・徳・体の一体的な育成に代表される、いわゆる日本型学校教育が選択と集中を余儀なくされるであろう働き方改革の中で、どのように推移していくのだろうかということである。

ご案内のとおり、子どもたちを取り巻く環境には、孤立や疎外といった影が見え隠れする。こうした状況を勘案したとき、誰もが社会の一員として認められ、役割を持つて活動し、自己実現を図るといふ、社会的包摂の視点に立つ日本型教育は重要な役割を担うが、それには日々の多くの積み重ねと時間が要る。子どもたち一人一人の深い受容の上に成り立つ営みだからだ。

このため、多くの教員は教育的情熱と使命感等をもってこの課題に取り組み、成果とともに恒常的な長時間勤務という大きなリスクを背負ってきた。

したがって、働き方改革の中でこれまで同様の教育を推進していくためには、思い切った人的措置がどうしても必要になるが、残念ながらその実現には相応な困難が予想される。よって、外部人材の活用を途を求めるところとなるが、特に求められるのは、担任教師の負担軽減に貢献し得る資質をもつ人材チーム、教員OB等である。

「二枚目の名刺」というNP Oがある。社会的な活動を通じて自らのやりがいや成長に繋げていくというコンセプトだ。今次改革は、私たちの出番でもある。自分の価値観を表現するも一枚の名刺が教職員の挑戦を後押しする。たといそれが心の名刺であっても。

全国校園長会長より

新しい時代における
学校の使命

全日本中学校長会

会長 川越 豊彦

令和最初の新年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年も、皆様にとつてよき年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

全国連合退職校長会におかれましては、全日本中学校長会の様々な活動に対し、御指導、御支援をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、中学校においては、今後10年を見据えた新学習指導要領の全面实施を目前に控え、その準備を進めているところです。

一方で国では、更にその先にあるAI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の技術革新によつてもたらされるSociety5.0という新しい時代における教育について議論されています。

技術革新は、教育の在り方にも大きな変革をもたらすと言われていきます。学習状況の活用による「個別最適化された学び」や「だれでも」「いつでも」「どこでも」主体的に学び続けることができる環境の実現などが、その例としてあげられています。また、Society5.0の到来は、これからの時代における学校の存在意義を問うています。しかし、教育基本法に掲げられている教育の目標を実現できるのは、子どもたちの知・徳・体を一体で育む学校教育であり、学校教育を支えている教師です。この使命を果たすため、全日中として取り組んでまいります。

全国連合退職校長会の皆様におかれましては、今後とも引き続き御指導くださいますようお願い申し上げます。



高大接続改革の行方

全国高等学校長協会

会長 萩原 聡

多面的・総合的に学力を評価

しようとする高大接続改革における大学入試の在り方で、揺れ動いています。会報第206号で宮本久也氏、会報第209号で笹のぶ氏が伝えておりますが、高校での授業で「思考力・判断力・表現力」を重視していくことから、大学入試でもこれらの力を見ることになりました。この1月の大学入試センター試験を最後に、次年度から大学入学共通テストに代わりますが、この試験では、国語や数学で記述式問題を、英語では4技能評価のために民間英語資格・検定試験を活用し、リーディングとリスニングの2技能の試験を導入する

ことになりました。

英語民間資格・検定試験を活用することは、経済的・地域間格差の解消、公正な検査の実施体制の整備等様々な課題があり、今年度になつても解消される見込みが立たず、全高長として7月、9月に文部科学大臣あてに異例の要請を行いました。その後、11月に文部科学大臣が英語民間試験の活用延期を発表しました。

その一方で、5月に発表された教育再生実行会議第11次提言を受け、中央教育審議会においてもSociety5.0時代に向け、STEAM教育と総合的な探求の時間など、新たな教育課題が示されています。これ以外にも、喫緊の課題として、教員の働き方改革、学習評価（観点別評価）と指導要録の改定、それに伴う調査書の改定と電子化など、多くの課題が山積しており、今まで以上に校長のリーダーシップが問われています。どうぞ本年も全連退の皆様方の一層のご理解、ご支援を、よろしくお願いいたします。



これからの時代の特別支援教育

全国特別支援学校長会

会長 朝日 滋也

全国連合退職校長会会員の皆様には、長年にわたり学校運営の最高責任者として、学校教育の充実・発展のために多大な貢献をされ、現在もお教育界の先達として御尽力いただいていることに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

特別支援教育は、学校教育法に位置付けられて13年が経ちました。この間、発達障害をはじめとする支援の必要な実情が理解され、小・中学校はもとより高等学校においても通級による指導が始まるなど、子供たちを巡る支援体制が充実してまいりました。

特別支援学校に通う幼児・児童・生徒は、13年前の13倍に当

たる14万人。特別支援学級に通う児童・生徒、通級による指導を受ける児童・生徒は、それぞれ2倍以上の24万人、11万人となっています。子供全体の出生率が下がっている中で、こうした傾向はここ数年、変わりませ

ん。個別の教育支援計画に基づき、就学前から卒業後までも切れ目のない支援が重要であると、法にも位置付けられました。平成29年には、「特別支援教育の生涯学習化」という文部科学大臣のメッセージが出され、学校卒業後の学びも充実が期待されています。

形も制度も充実してきた特別支援教育ですが、今後は内容と教育の質が問われます。長年この教育を牽引したベテラン層も退職の時期を迎え、世代交代をすすめるながら、一人一人のニーズに応じ、学校卒業後を見据えた教育が的確に行われること、その人材育成を着実にすすめることが、何よりの課題です。大きな転換期を迎える特別支援教育。ぜひとも退職校長会の皆様のお力添えをお願いいたします。



四国地区

期日 9月19日(木)
会場 にぎたつ会館(松山市)
出席者 15名

一 本部情報及び連絡

全連退常任理事三上裕三会計部長から、本部の活動状況、国への要望事項等について丁寧な説明をいただいた。また、文部科学省初等中等教育局から出された最新の概算要求主要事項について情報提供があった。

二 協議及び情報交換

協議題①退職校長会の在り方及び活性化の方策について。
○総会等への参加率が年々減少しており、課題となっている。

○若手の意識が変わってきている。退職校長会に加入するメリットをアピールする必要がある。
○小中学校校長会との教育懇談会を実施している。
○新入会員の勧誘のため、学校訪問を実施している。

協議題②学校支援・地域貢献に対する取組について。

○「教育の日推進県民協議会」のメンバーとなっている。○校長退職者が学校運営協議会の委員となっている。○個人・グループで、学校や地域に貢献している。○退職校長が再任用で、初任者教員支援員や指導主事となっている。

協議題③消費税10%への対応について。

○振込手数料の値上げや宅配便の料金値上げなどにより、会の運営に大きな支障が出ている。
○会費は、各支部が集金し総会時に持参するため、振込手数料値上げの影響はない。○昨年度から、88歳以上の会員からも、協力金として寄付を募ることとした。○印刷費及び通信運搬費に消費税10%の影響がでるが、当面は乗り切れる。

三 まとめ

協議を通して他県の取組がよく分かり、刺激を受け、今後の参考となった。魅力ある組織にするために、また、退職校長会の活性化のためにも、各県において、今回の協議を生かしたい。

東北地区

期日 元年10月10・11日
会場 青森市ウエディングプラザアラスカ

出席者 52名

〔理事会〕

協議会運営・在り方等について話し合われた。

〔開会行事〕

奈良年永東北地区退職校長会協議会会長（青森県会長）の挨拶、和嶋延寿青森県教育長、小野寺晃彦青森市長から祝辞を頂いた。

〔講話〕

全連退三上裕三理事の「当面する全連退の課題について」の講話が行われた。

【話題提供と協議】

「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」を協議とし、3県より実践発表があった。

秋田県は、今日の秋田教育の源流を探り、アンケート調査に

よる教師の現状認識を確認した。秋田の学力の維持・向上は、職場における確かな「同僚性」によって支えられていて、これが教師の確かな指導力の礎になっていたことが明らかにされた。

岩手県は『鎮魂の歌』を歌うことにより、大津波の恐怖・悲惨さを教訓にし、併せて防災の意識と仲間意識・所属感・一体感が高まり、意識の共有化が図られた。また、会報の編集・配布活動により仲間意識の共有が図られたとのことであった。

青森県は「はじめに、先輩校長として現職校長の応援団となる存在、退職後の目標的な存在になれば嬉しい」との言葉があり、当支部の6つの柱からなる活動内容を具体的に述べ、次に会員との絆づくりの体制、更に

準会員・新入会員を増やすための方策等の発表があった。

〔閉会行事〕

開催県会長の挨拶、次期開催の岩手県の日程等の紹介

〔親睦懇親会〕

関東甲信越地区

1 期日 元年10月17・18日
2 会場 川崎市「川崎日航ホテル」

3 参加者人数 1都9県67名

4 協議内容

協議題「存在感のある退職校長会を目指して」

魅力ある事業活動の開発及び会員相互の交流連携をどうするか

協議題を受け、次のような「共通課題」を設け、協議や意見交換等を行った。

(1) 貴退職校長会では、魅力ある事業活動の開発という課題に、どのように向き合い、どのような取り組みを行っているか、また、そこでの課題は何か。

(2) 貴退職校長会では、会員相互の交流という課題に、どのような場面や対応でどのような成果を挙げているか、また、そこでの課題は何か。

二つの共通課題について、それぞれの都県から7分ぐらいの

短い時間ではあったが、取り組みについての話題提供や報告があり、その後活発な協議や意見交換等があった。

その中でホームページの開設についての課題と効果についての意見交換等が多かった。先行して取り組んでいるところからは、会長の決裁で行い、全会員へ発信できる等の利点はあるが、情報には光と影の部分があるので、人的な環境を整える等しっかり準備してから取り組むことが大事とのアドバイスもあった。

また、どこの都県でも抱えている課題としての会員拡大の話題もたくさんあった。現職校長会を準会員制度として取り組んでいることや元会長をプロジェクト会員とした拡大に向けたプロジェクトチームを立ち上げて取り組んでいる例なども報告された。入子会長からも、九州地区は多くが現職校長を準会員として準会員制度を導入しているとの情報提供もあった。

熱い協議を終え、全員で記念の集合写真を撮った後、懇親会に入った。



研修と運営等の工夫

香川県退職校長会

会長 溝渕 正臣

平成30年度から、会費の値上げと88歳以上の方への協力金の依頼を実施し、財政基盤を固めながら事業を展開している。

まず、研修活動の充実である。4月の定期総会時に行う講演会がある。教育や防災、健康、交通安全等、生活に密着した内容を企画し、魅力度を高めている。「一日研修旅行」は、四国内と外を隔年で行う事業である。史跡や文化施設等を訪ねる中で、会員相互の意思疎通や親睦の深まりも求めている。「地域探訪ウォーク」は、各地域の退職校長会が持ち回りで企画・運営の中心となる事業である。地域の自然や文化等に触れることは、新しい郷土の発見や出会いを生み、人的資源の活用は研修を深

めると感じる。また、この機会は各退職校長会の組織力の高まりが期待できる貴重な場でもある。現在、県下に10ある退職校長会が創意工夫し、二巡目を担当・実施している。

これらの研修は、研修地・研修内容の検討と参加者の増加につなげる努力が課題である。

次に、情報活動の工夫である。「豊かな日々を求めて」は表紙絵や合紙等、会員自作の会誌であり、3年に1度の発刊である。会員相互の連携の礎になったり、共感したり勇気づけられたりして、日々を有意義に過ごすための糧となることをねらっている。昭和54年の創刊以来、本年度第35集の発刊となる。

一方、役員及び運営組織の見直しについて検討している。各退職校長会長の県の組織の中の位置づけや運営の充実・円滑化を図る工夫等である。専門部の4部会から3部会への整理統合や事務局長会の再開等も課題になっている。

今後とも会員の豊かな生き方につながる工夫を継続したい。

本会の活動状況

鹿児島県退職校長会

会長 石塚 勝郎

本会は、1966（昭41）年に、「鹿児島県教育会」として数百名で発足し、1992（平4）年に「鹿児島県退職校長会」と改称し、今日に至っている。発足以来、本県の教育の振興と郷土の発展に寄与し、会員の親睦と福利の増進に努めることを基本理念に、半世紀を超える活動を続け、発展してきた。

本会の特色の一つには、当初から公立小・中・高・特別支援学校の全ての退職校長が入会できるとし、毎年9割以上の退職校長が加入していることである。二つには、県下の小・中・高・特別支援学校の全ての現職校長が賛助会員として加入することが定着してきていることである。現在、正会員約3000名、賛助会員約800名をもつ会として発展してきている。

現在は、郷土、学校、地教委等の応援団として、県教委、県P連、市町村教委、県連合校長会と密接な連携を図りながら、県本部において、総務、生涯学習、広報、福利厚生の4部による活動の推進と、県下12支部における地道な活動を続けている。一方で超少子高齢化に伴う会員減や財源不足への対策、今日の本会理念実現に向けての活動の在り方など、本会の充実発展を目指している。特に、一昨年度から、他に依存することなく、会員からの会費をもってひとり立ちできる会とするということ、会則の改正、会の運営の工夫、事業費の削減などについて努力し、3年間で通常の運営を取り戻すことができた。

今後、国、県、市町村や学校の教育の動向に目を向けながら、これまで培ってきたことで支援できることを積極的に行動に移し、応援団としての退職校長の役割を果たしていきたい。

第2回理事會報告

(令和元年度)

一 開会の辞

副会長 川合俊平

(2) 各部・各委員会の活動状況報告

報告

め今年度から16ページ建てにした。

日時 令和元年9月30日(月)

10時30分～15時

二 会長挨拶

会長 入子祐三

場所 きゅりあん(品川区立総合区民会館)

出席者 全国連合退職校長会
長・副会長・常任理事
・理事・監事等60名

今年の夏も各地で豪雨・強風の被害がありました。とりわけ9月9日、千葉県や東京都島しょ地区を襲った台風15号による強風被害は、想像もつかないような被害で、電気や水道等が何日も止まってしまった大変な状況になりました。心よりお見舞い申し上げます。

司會進行 総務部長 田中昭光

本日は、午前中は報告事項が中心となり、午後からは各県の活動状況についての情報交換が中心となります。ご協力いただいで、実りある会にさせていただきたいと思ひます。

三 報告事項

(1) 「文部科学省・厚生労働省・総務省に対する要望書」提出について 田中昭光総務部長(会報213号参照)

① 総務部(省略)

② 教育振興部

子どもたちの豊かな心を育てるために、叱ることの大切さを見直していく基礎調査として東京都内のいくつかの学校で子どもたちの声を聞いてまとめています。

「教育の日」に関する調査は、11月末日が締め切り日である。

「教育の日」推進の変遷――20年の歩み――という冊子の編集に取り組んでいる。

③ 生涯福祉部

米寿・上寿者の調査結果をまとめた。

叙勲受章者の調査は9月末日締め切りである。

④ 広報部

会報213号(9月30日号)を発行した。

従来は9月30日号は20ページ建てだが、経費削減のため

⑤ 会計部

今年度会計予算案を立てる際に会費納入者の予想を86500人としたが、年度当初の各県からの報告によると昨年度より70名ほど会員数が減少している。

7月19日に財務状況健全化検討会議を開き、今後の見通しについて話し合いを行った。大変厳しい状況である。

⑥ 教育課題委員会

今年度は小学校における教科担任制の導入について検討を始めている。

そのことに関するアンケート調査を各団体にお願ひする。締め切りは11月末日。

⑦ 事業委員会

働き方改革の問題について、全国連合小学校長会会長に



講演してもらった。

●新学習指導要領に基づいて
刊行された教科書に関して、
教科書協会に向いて研修
を行う予定である。

(3) その他

① 「各退職校長会の概要」
の合本 「令和元年度都道
府県退職校長会概要集」と
いうことで合本した。川
井仁事務局長

② 文部科学省令和2年度概
算要求について 田中昭光
総務部長（配布された資料
を基に解説）

——昼食・休憩——

四 情報交換・課題のグル プ別話し合い

(1) 8グループに編成 今年も
いろいろな地区が混ざり合っ
て構成された。

(2) 共通話題

① 「各団体の特色ある活動」
について

②本部に対する要望

(3) グループ別の話し合い
(4) 各グループからの報告

Aグループ

●退職校長会を通じての活動を
どのように発信するか、アッピ
ールしていくのか。●地域世話
係が連携・協働して事業活動を
実践している。●会員の特性を
生かした学校教育や地域教育へ
の支援を実践している。●現役
校長の準会員制を維持している
県があり、組織の拡充に結び付
き、意義がある。●日ごろの活
動の活性化として地域での連携
を大事にしている。

Bグループ

●現職の頃から準会員にして、
退職後に正会員になってもらう。
●学校支援や地域貢献に関して、
退職校長ができる仕事とその魅
力について人材バンク等で紹介
する。●会報等に載せて一般会
員や新会員に配布する。●ホー

Cグループ

ムページの活用を図る。●全連
退が概算要求などで成果の上が
る方法をとることが会員に訴え
る力になる。

●社会教育施設については、企
画の段階から関係していること
が大事である。●会員になった
時に、こういうことで学校や地
域に協力できるといふ登録制を
取っているとところもある。●新
学習指導要領に関する問題で、
一番大事なことは学校文化を継
承することだ。教育は何のため
にするのか、どういうことが大
事なのか根本に戻る話を現職の
校長にしてあげることが、楽に
させることではないか。●退職
校長会は会員一人一人が所属観
を持つこと、そして、退職校長
会の存在感を示すことが大事だ。

Dグループ

●東京オリピックレガシーづ
くりをしている。●現職校長が

全員賛助会員として入っていて、
現職との交流にも効果を上げて
いる。また、60代の会員に予算
を付けて活動を援助している。

●会員名簿は個人の了解を得て
発行している。●趣味への関わ
りで、百聞は一見に如かずで、
勾玉づくりを行った。●毎年県
全体の会員研修・親睦会やプロ
ックごとの研修交流を行う。東
日本大震災を経験して、考え方
が変わった。今の生活、普通の



生活を会員同士大事にしていこうと思つてゐる。●県内に複数の組織があるところでは、連携は難しいが、順番制で役員当番を決めているところが多い。

Eグループ

●入会率の減少の原因として、意識の変化、社会の変化、価値観の多様化があり、今までのような勧誘方法では手詰まり感が出てくる。●ある県では現職校長との47回目の親睦旅行を実施している。●「教育の日」の事業を推進している。11月を教育月間として取り組んでいる。●行事を魅力あるものにしようと力を注いでいる。●90歳以上の高齢会員に対する会費免除制度を廃止したところがある。

Fグループ

●県の教育長や現職校長会長、PTAや教育団体との懇談会を積極的に開いて、情報交換をし、要求を聞いてそれを県全体の教

育力アップにつなげている。●小中高と3団体あるところはそれぞれに連携しながら活動している。●退職校長会の使命は現職校長のバックアップ体制の強化にあるという姿勢でいろいろな取組をしている。中には教育

Hグループ

研究委員会を独自に持ち、60代の会員13名を入れて活動している。●支部活動の活性化のために支部活動費として助成金を出している。●教師の喜びと生きがいを紹介し、学校に優秀な教員を増やす働きかけをしていく取組を始めた。

Gグループ

●退職校長会がどういう活動をしているのかを現職校長にどれほど伝わっているのか、もう一度十分考慮して活動していかなくてはならない。●教育の日に

関して、教育委員会と協賛で現職退職校長支部別教育推進協議会を設置し、各支部ごとに研究



の表彰を退職校長会で行つてゐる。●人材バンクに登録してもらい、教育支援活動を行う。●小中高で会長を2年ごとに順番に選任し、円滑に運営されている。●予算・事業に関することのために事業等検討特別委員会を作り、予算を有効に使うとされている。●会員名簿は、全員の会員に配る必要があるか、検討している。●全連退の会報の字が小さすぎる。

(5) 会長のまとめ

長時間にわたり熱心な話し合いをしていただき、ありがとうございます。また、記録係の方がそれぞれのグループの様子を発表してくださいましてありがとうございます。今日の話し合いについては部長会等で検討し、生かしていきたいと思つてます。

五 閉会の辞

副会長 新沼隆三

文部科学省大臣官房審議官（初等中等教育局担当）

矢野和彦氏の教育行政の説明と懇談会

一 日時

令和元年8月22日（木）午後
1時30分～3時

二 会場

文部科学省内 会議室

三 出席者

◎大臣官房審議官 矢野和彦氏
○全連退入子祐三会長、各部長

・委員長、全国退職女性校長
会会長福田勅子他3名、全国
教育女性連盟会長白鳥恵子他
2名

四 教育行政の説明と懇談会

司会

全連退総務部長 田中昭光

1 矢野審議官の教育行政の説明

新学習指導要領のポイント

来年度の予算では、情報活用能力、ICT環境整備が大きな課題になるだろう。新学習指導要領のポイントとして、



小中高校の共通ポイントは、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けている。今後の21世紀を生き抜く上で、子供たちにとって情報活用能力をどう身に付けるかが大事だと学習指導要領は明記している。また、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実に配慮することをあえて明記した。小中高等学校別のポイントとして、小学校においては、文字入力な

ど基本的な操作を習得し、プログラミング的思考を育成する。中学校においては、技術・家庭科（技術分野）においてプログラミング、情報セキュリティに関する内容を充実していく。高等学校においては、情報科において共通必修科目「情報I」を新設する。これに加えて、大学入試の共通テストについても情報について出題あるいは必須のものになることで準備を進めている。

学校のICT環境整備

学校のICT環境整備に係る地方財政措置に関して、教育のICT化に向けた環境整備5か年計画（2018～2022年）を立てた。目標としている水準は、3クラスに1クラス程度の学習用コンピュータを整備する。指導者用コンピュータは教師1人1台。大型掲示装置・実物投影機は100%整備を目指す。超高速インターネット及び無線LANも100%。統合型校務支援システムも100%整備する。ICT支援員は4校に1人配

置という整備を目指している。学校のICT環境整備の現状は、2018年3月現在、教員用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は、56人である。LAN整備率も34%、超高速インターネット接続率も63%とかなり低い。

どこに住んでいても、誰でもあっても、妥当な規模と妥当な内容の教育が受けられるということが義務教育の精神だ。ところが、情報教育、情報活用能力、ICTについては、各自自治体の裁量に任せた結果、どんどん格差が広がっている。今までは、教員を配置して、教材をそろえることに気を使ってきた、それで全国各地がある程度の水準を保ってきたわけだが、ここにかけてICTが出現して、教育格差が年々広がっていくことは間違いないと思われる。文科省としては、今まで財政面を自治体に任せてきたわけだが、もう少し国が指導すべきだという意見が非常に強くなってきている。令和2年度の概算要求では、かなり頑張ろうと思っ

いる。
ICT支援員

ハードが無事整備されたとして、誰が教えるのか。ICTを活用した授業等を教師がスムーズに行うための支援を行うことが支援員の役割だ。今、地方公共団体に配置されている支援員は2800人だ。ICTプログラミング教育の分野については、外部人材に相当入ってもらわなければならない。ICTを活用した教育を推進するためには、教員をサポートするICT支援員が重要な役割を果たす。ICT支援員の具体的な業務として、授業支援、校務支援、環境整備（日常的メンテナンス支援、ソフトウェア更新等）、校内研修がある。

遠隔教育の推進

遠隔教育の推進については、すでに一部自治体では、高校レベルだが、世界史の教師がいなかったというところで、遠隔教育で世界史だけは行った。中学校でも、今までは遠隔教育は社会科の先生が授業をして、受け手側にも社会科の先

生がいないとだめだといってきたが、今年から、特例校として文科大臣が認めた場合は、先生であればいいということになった。電波を飛ばす側の先生は社会科の先生でなければならぬが、受け手の方は先生であればいいということになった。文部科学省令を9月21日に通知したばかりだ（遠隔教育特例法）。申請があれば認められるのだが、環境を整えられているということ、先生が机間巡視しているのと同じような効果が必ず得られることを条件にしている。

免許外教員が離島やへき地で教えるよりは、免許を持った先生が授業を行って、子供たちには別の先生がついていくという形にしようという制度改正を行っている。遠隔教育の例としては、多様な人々とのつながりを実現するものとして、海外の学校との交流学习がある（長崎県対馬市と台湾の小学校と英語で）。また、小規模校の課題解消に向けた合同授業がある。義務教育は多人数の中でのコミュニ

ケーションの中で子供たちは育っていくことから、小規模校の子供たちが他校の子供たちと一緒に授業を受け、多様な考えに触れる機会を作っている。

教科の学びを深める遠隔授業では、小学校におけるプログラミング教育の中で、大学と接続し、導入で興味・関心を高めたり、教室にいながら社会教育施設を見学し、専門家による解説を聞くバーチャル見学を行う。また、高校における教科・科目充実型授業として、特定の教科・科目の教師がいない学校に配信し、開設科目の数を充実させている。

個々の児童生徒の状況に応じた遠隔授業では、外国人児童生徒の日本語指導（児童と離れた学校の日本語指導教室に接続する）や病気療養児に対する学習指導（病室で）などがある。

校務の情報化

教員の働き方改革に資する校務の情報化の推進ということで、統合型校務支援システ

ムを、現在40～50%の学校で導入した。教務（成績処理、出欠管理、時数等）・保健（健康診断票、保健室管理）・指導要録などがある。成績処理とか子供たちの日々の状況をコンピュータで一括管理して、関係者は共有できるようにするという校務支援システムはかなり取り入れられつつあるが、まだ十分とはいえない。さらに推進していく。

先端技術を活用した学びの在り方
新時代における先端技術を効果的に活用した学びの在り方について、今年6月に「新時代の学びを支える先端技術の活用推進方策」の最終まとめを文部科学省が出した。その中で、子供たちの多様化が見られ、他の子供たちとの学習が困難、ASD、LDなどの発達障害、日本語指導が必要、特異な才能を持つ子供などがいるが、多様な子供たちを「誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学び」の実現を目指している。これからのわが国では、一人一人が経済的に自立できるよ

うなものを持たなくてはならない。幸いにもICT機器が発達してきている。障がい者・障がい児にもいろいろな機会を与えてくれている。そういう意味で、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びの実現を目指す。先端技術を活用して、少しでも人間らしく生きるという発想が根本的な思想としてあるのだ。

教育現場でICT環境を基盤とした先端技術・教育ビッグデータを活用することの意義だが、個々の子供の状況を客観的・継続的に把握するセンシング技術(データとして表す技術)について、近未来の話ではあるが、子供の状況をICTでいろいろとデータを取っていったら、子供の変化を見つけていく。今までは先生たちの経験と勘に頼っていたわけだが、そこをセンシング技術で、感情的に何か問題があったとか、最近随分落ち込んでいたといったことが先生の手元に一目瞭然のデータとして入ってくる。

また、ベテラン教師から若手教師への「経験値」の円滑な引継ぎにも活用できる。ベテランの先生の経験値は珠玉のものだと思いうので、それをどう可視化していくかを研究していく必要がある。

教育現場での先端技術の活用
ICT環境を基盤とした先端技術を活用した教育ビッグデータが使われる教育現場について、教師の視点からは、指示事項や子供の登校時間、家庭学習・グループ学習の状況などあらゆるデータを一目で把握できる。当然、今まで紙で行っていたドリルなどはタブレットで代替できるだろう。ただ、使い方によっては全然意味がないのではないかという議論もあるので、どのように使用していくのかは非常に重要だ。

教育委員会の視点では、学校ごとのデータをリアルタイムで参照できる。今までのように紙で教委から照会が来て、先生方が書き込むようなことがなくなる。学校への調査が不要になる。また、遠隔によ

り手元のデバイス(ハードデバイス)で研修を受講できる。保護者の視点からは、学校における子供の様子(音声・動画)や連絡事項をリアルタイムで確認でき、学校への連絡も容易になる。

国・大学等の研究機関の視点からは、学習指導要領の改訂など、政策決定の根拠としてデータを活用する。これは、エビデンス(証拠・根拠)が色々取れるということだ。それが予算にも反映される。2025年 未来のイメージ・スナップショットということ。願望的なところがある。

学校をめぐる状況と課題

現在の学校をめぐる状況と課題だが、学校で使うためのパソコン等の機材は、教師のニーズや働き方に照らして使い勝手が悪く、価格も市場の機器と比較して高く導入されている場合が多い。利活用上の課題として、どのような場面でどのような機器を活用することが効果的なのか、実証的な検証等が少なく、明らかでない。収集したデータが

教育の質の向上に十分活用されていない。今後、遠隔教育をはじめICTを基盤とした先端技術の効果的な活用の在り方と教育ビッグデータの効果的な活用の在り方や基盤となるICT環境の整備に係る方策をまとめるとともに、着実に推進していくための体制を提示したい。具体的には、先端技術については、「学校現場における先端技術利活用ガイドライン」を令和2年度には策定したい。それから、教育データの標準化と学習履歴(スタディ・ログ)等の利活用の具体的な在り方の検討も令和2年度までにはまとめたい。世界最高速級の学術通信ネットワーク「SINET」との接続と、安価な環境整備に向けた具体的モデルの提示やクラウド(ハードウェアを購入したりソフトウェアをインストールしなくても利用できるサービス)活用の積極的な推進も今年から進めたい。

学校のICT環境は、文房具と同様に教育現場において

必要不可欠である。一方で、学校のICT環境が脆弱であり、地域間格差があることは危機的な状況にある。整備が進んでいない原因としては、必要な機器の整備コストが高いことや、どのような整備を行うべきか判断がつかないことなどがあげられる。これらの現状や課題を踏まえ、文部科学省では、世界最先端のICT環境の実現に向け、令和元年度内にそのロードマップを策定する。

SINETの初等中等教育への開放について、「SINET」とは、国立情報学研究所(NII)が構築・運用する高等教育を対象とした日本の全国の国公私立大学、公的研究機関等を結ぶ世界最高速級(100Gbps)の通信インフラをいう。実は学術・高等教育機関は非常に太い線を持っていて、それに対して初等中等教育機関はまだ十分ではない。しかし来年には間違いない回線が太くなる。安全で安価で高速大容量の3つの条件が重要だ。学校にとって

最適なものを構築していききたい。

専門性をもった人材の育成・確保のための取組では、これ以上先生方に負担をかけることは難しい。やはり外部人材の活用だと考えている。ありとあらゆる人材を掘り起こし、先生方が個別最適な教育に集中できるように、その方向にかしを切っていくところとだ。ただし、最後のところは人対人だという考えは全く変わらない。教師の資質・能力がどうしても問われてくる。ICTは一つのツールだと考える。

2 質疑応答

○橋本教育課題委員長 新らしい教科書を開いてみると、数ページごとにQRコードが入っていて、子供が別の情報を得られるような教科書になっている。先生たちはこれをどう使うのだろうか。QRコードで開いた内容は教科書検定の対象になっているのか。

◎矢野 QRコードからとぶ先は、教科書検定にはなっていないが、必ず教科書会社責任を持つて編集したものでなくてはならない。今のデジタル教科書は教科書をそのままデジタル化したものだ。しかし、これが発達していくと、映像やグラフを大きくするなど子供たちが理解しやすいデジタル教科書は間違いないで発展する。紙の教科書とどう併用していくのかという調査研究をここ数年で進めなければならぬ。ただ、紙の教科書はそう簡単にはなくならないだろうと思っている。

○荻原教育振興部長 児童虐待への対応と連携の強化というところで、叱ることがおろそかになっていったときに、チーム学校の中で力を入れることも必要ではないか。

◎矢野 複数の大人がその子供を見守ることの大事さが改めて見直された。専科教員の問題も関係がある。小中学校の段階では複数の先生方が必ず子供の様子を見る。ICTを活用し、セ

ンシング技術を活用することも必要だ。

会長からのお礼の言葉

○入子会長 長時間にわたって熱心に、当面する課題、とくに教育の情報化についてご説明いただきありがとうございます。これからもよろしくお願い申し上げます。



懇談会出席者一同

地方の会報紙より

笑って健康

幸せ届けます

桑名支部 木村 洋子

(三重県退職校長会「いきがい」第37号)

退職後、梅の実会で先輩からピンクのチラシをいただきました。「よかつたら来て！」それまで全く知らなかった「笑いヨガ」でした。退職後しばらく経ち、心の余裕ができたので、アスト津の笑いヨガに参加しました。あくる日の朝のすがすがしい気持ち、今も忘れられません。それ以来、「笑いヨガ」に魅せられました。

昔から「笑う門には福来たる」「笑いは百薬の長」など、笑いの効用は知られています。いろんな研究がなされ、科学的な根拠もわかってきました。そうだけでなく、みなさんご自分の体験から笑いの効果は体験されていることと思います。

私は、桑名市内で講座やサークル、単発の依頼をいただいで

「笑いヨガ」をさせていただいていますが、参加者の方の声は次の通りです。「幸せな気持ちで過ごせるようになったわ」「今まで苦手と思っていた人と、も平気で話せるようになったわ」「身の周りの楽しいことに、気が付くようになったわ」「大きな声が出るようになったわ」など。

今回の退職校長会での「笑いヨガ」は、これまでの中で一番緊張しました。というのは、笑いヨガに来てくださる方は女性が多いこと、校長先生をされていた方が「ワハハハハ」と大きな口を開けて笑ってくださいるだろうか？何度も何度も指導案を練り直し、シミュレーションを繰り返して、当日を迎えました。

私の心配は何のその。どこの笑いヨガよりも、大きな声で、楽しく笑ってくださいました。

私は地に足の着いた活動・笑いに来てくださる方が主役・その方たちに喜んでいただける笑いヨガをしていきたいと思っています。

「オレンジカフェ」で笑いヨガをさせていただいたとき、お

母様と参加された息子さんが「母がこんなに笑ったのは、久しぶり！うれしいです」と言ってくれたことが、本当にうれしかったです。

これからも、自分の笑いヨガをしつかりと見つめ、研究して、多くの人たちに伝えていきたいと思っています。

古代米三種

東伯 足達 泰久

(鳥取県退職校長会「積雲」第92号)

令和最初の田植えを終えました。退職したのを機に、古代米の栽培に取り組みました。病気に強く、肥料もあまり必要としないというのが魅力でした。また「古代米」という言葉の響きにも惹かれました。

最初はインターネットで種別の情報を調べてみました。値段が凄く高く、手が出ませんでした。結局口コミが確実で、早く手に入りました。人との繋がりが一番でした。

それから十年余り経ち、平成

から令和へと時代も変わりました。古代米の種類も三種類に増えました。十年一昔で長くやっているようですが、十回ほどしか経験がないのです。一回失敗すると、挽回は次の年まで待たなくてはなりません。ものを育てる難しさと楽しさを感じながら、今朝も五時に起き、田の水見と畑の夏野菜の世話をしました。

あと何回作ることができるとは分かりませんが、頑張ってみようと思つています。先日も孫が手伝いに来てくれました。汗をびっしょりかきながら手を動かす姿に、こちらもつられてついついオーバーペースになり、普段より早く仕事を終えました。毎日ではありませんが、共に過ごす楽しさと収穫の喜びを味わっています。

過ぎゆく年月の速さ

宮崎支部 成相 城一郎

(宮崎県退職校長会会報)

過ぎゆく年月の速さには驚い

ています。

「年齢速度の法則」によると年齢と時の速さは同じで、十五歳の子どもは十五kmで生きていて、三十歳なら三十km、とすれば八十歳の私は八十kmの速さで生きていくことになります。高速度路を走っているんですね。月日の経つのが早いはずですが、

ため息をついていましたら、「チコちゃんに叱られる」という番組で、大人になるとあつという間に一年が過ぎるのは、「ときめき」が無くなるからだというのがありました。

振り返ってみれば、大きな十五夜の月を見て感動したり、夕焼けの美しさに思わず立ち止まったり、道端に咲く楚々として可憐な花をしゃがんで見たりする気持ちが遠ざかっている自分が居ます。

チコちゃんから「ボーツと生きてんじゃねーよ！」って叱られそうです。

そうか、もつと「ときめく」ことも大事なんだと思いました。

お話おじさん

豊後大野市 小林 繁

(大分県退職校長会「会報」第167号)

幼少期の読書によって己の性格形成は成されたと信ずる私は、在職中から多くの童話や創作児童文学を発表。

定年退職後は県立図書館や福岡市立図書館を始め地域のPTAや文学諸団体で児童文学講演活動等、子ども読書の振興に努めてきたが、縁あって地元小学校の読み語りグループ「サンクス」の一員となった。

会の名前は校庭に聳える三本の大楠の如く雄々しく逞しく育てとの願いを込めての命名と聞くが、会員は主としてお母さんが中心。始業前の職員朝礼時で、教室に先生不在の十分間程度の読み語りだが、家庭では朝の一番忙しい時間帯を割いての活動だから、読書に賭けるお母さん方の熱意に深甚の敬意を表する次第。

今年傘寿を迎えるロートル会員は私一人。賛助会員としての参加だがそこは昔取った杵柄。

子どもの前に立てば懐かしさも手伝って意気揚々。

そのうえ自作童話や自作紙芝居を自分自身の声で語れるのだ。私は名声優よろしく感情をこめて読み語りを始める。

十二年経った今も

上小支会 廣川 岩男

(長野県退職校長会「会報」第138号)

元勤務した小学校の通学路を、久方ぶりに徒歩で通る機会がありました。今も児童が登下校しています。

信濃鉄道高架下にある壁はやや色あせているものの、明るいクリーム色をしていました。かつてこの壁は、一面落書きで覆われ、薄暗くて怖くさえ感じる所でした。しかし、今は落書きが全くありません。何とも言えぬ感慨に浸り、しばらくそこに佇んでおりました。通り過ぎる人は、そんな私を不思議に思っ

て見たかも知れません。

思い起こせば、現職最後の年の七月であったように思います。当時、上田市では駅前浄化運動

の一環で、各団体がパトロールを行っていました。その折、前

のPTA会長Wさんの発案で、PTAの賛同を得て、児童を主体にした「高架下落書き消し作戦」が行われました。当日は下校後でしたが、多くの親子が参加し、そこに地域の皆さんも積極的に協力していただきました。

子ども達は、わいわい楽しそうにペンキを塗り、あつという間に落書きが消え、見違えるような光景になりました。みんなで大喜びし、得意そうに私を見上げる児童の顔は、今も忘れてはいません。

これを、Wさんにお話ししたところ、最近通った方が「こんなに綺麗だったつけ」と驚き感動したと伝え聞き、この活動が無駄でなかったとの思いを深めたと語ってくれました。

十二年目になっても、落書きがされないという現実に、親子の願いが皆の心に響き、子ども達の活動が素晴らしい形で今もそのまま残っていることに感動を覚えています。このままでずっといて欲しいと願っています。

五反田だより

最近、一眼レフカメラを買い替えた。購入したカメラを家で開封したところ、取扱説明書が1枚(8ページ分)入っていた。そこには、本当に基本的なことしか載っていないかった。もっと詳しく知りたい場合は、パソコンを使ってそのカメラのオンラインマニュアルからダウンロードするよう書かれていた。仕方なくその指示に従って印刷した。A4用紙で30枚以上あり、印刷終了まで3時間かかった。印刷したプリントを3つの袋に分け、袋の上に取り扱い内容とそのページを記載した。実際に取り扱い方を探すとすると結構時間がかかる。以前までは180ページ程度でコンパクトな大きさの冊子のため、知りたい箇所がすぐ見つかった。

売る側の経費削減のためにこのようにしたのだろうか、使う人の立場に立ったサービス精神が忘れられていないだろうか。

(M・T)

◇10月

- 4 部長会
- 9 教育課題委員会
- 参加(子供たち一人一人に対するきめ細かな指導の充実)
- 18 生涯福祉部会
- 21 教育振興部会
- 23 全連退情報170号発行
- 29 部長会

◇11月

- 5 教育課題委員会
- 12 部長会
- 18 広報部会
- 25 広報部会
- 26 第4回常任理事会
- 28 教育振興部会

◇12月

- 2 東京都退職校長会との連絡・懇親会
- 3 広報部会
- 5 教科書研修会

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3～5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は令和2年5月31日までです。

送り先 メール info@zenrentai.org
 郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

- 10 部長会
- 11 教育課題委員会
- 17 国会議員への陳情(教育振興・教育の日制定)
- 18 生涯福祉部会

編集後記

○あけましておめでとうございます。今年は、災害の少ない穏やかな年になるよう願っております。

○文部科学省大臣官房審議官 矢野和彦氏の講話の概要を掲載いたしました。「教育の情報化の推進」と「新時代の学びを支える先端技術の活用推進方策」を中心にしての話は、これからの学校教育を考えると、いく上で参考になる内容でした。

○今年も広報部員一同は、よりよい会報を目指して努力を続けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

全連退会報(214号)

発行 令和二年一月一日
 発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八
 全国連合退職校長会
 電話 〇三三四四二八七六八
 FAX 〇三三四四二八七六八
 Email: info@zenrentai.org
 振替口座 〇〇一九一四四七二〇
 〇責任者 入子 祐三
 印刷 株式会社 信行社
 電話(〇三)三八三三三三六二二